

天明まちづくりセンターだより

発行/熊本市南区天明まちづくりセンター 〒861-4125 熊本市南区奥古閑町 2035 ☎096-223-1117 FAX096-223-3275

令和3年 春の叙勲・褒章

令和3年春の叙勲・褒章受章者が発表され、天明地区では、叙勲「旭日単光章」を村上義博熊本市南土地改良区理事長、褒章「藍綬褒章」を三宅幸照熊本市消防団副団長が受章されました。



村上義博熊本市南土地改良区理事長は、長年の土地改良事業における功績が認められ、今回の受章となりました。

村上さんは地域農業発展のため、排水対策や農地整備など、多くの土地改良事業に取り組み、天明地域の農業振興に大きく貢献されました。村上さんは、「私が受章できたのは、熊本県や熊本市、水土里ネットの協力と地元農家の方々のご理解とご協力のおかげであり、大変感謝しています。長年土地基盤を整備し農業収入が安定してきたことで、近年後継者が増えてきたことは喜ばしく思います」と述べられていました。

三宅幸照熊本市消防団副団長は約30年に渡る天明地域での消防団活動への貢献が認められこの度の受章となりました。2014年から副団長を務め、消防大学校(東京)の研修にも参加され活動の幅を広げられてきました。三宅さんは、「これまで長い間消防団活動をすることができたのも一緒に活動してきた仲間たちや家族の支えによるもので、大変感謝しています。近年は日本各地で、地震や豪雨など大規模災害が起きているので、災害への備えの重要性を感じています。今後も防災活動により一層取り組んでいきたいです」と述べられていました。

お二方とも、受章おめでとございます！

奥古閑小学校干潟体験

6月25日海路口町サエモンバナにて、総合的な学習の時間を利用して奥古閑小学校6年生による干潟体験が行われました。当日は、海路口漁協や海路口漁業者、熊本市水産振興センターの方々のサポートのもと、児童の皆さんは、泥まみれになりながら、干潟体験を楽しみました。



ふるさとの鳥シリーズ(3)

田んぼの番人「バン」



天明新川や内田川の川べりで、ハトぐらいの黒っぽい鳥を見かけることがある。この鳥は「バン」という。特徴は、くちばしの下半分が黄色で、上半分から額にかけて真っ赤である。泳ぐのも、飛ぶのもあまり上手とは言えない。一年中

見かける。人が近づくと、「ケッ」と警戒音を出す。それが田んぼの番になるということで、バンと名づけられたようだ。

私も内田川で、バンと毎日遭遇するようになった。そこには人と出会った時、すぐ逃げ込める穴(隠れ家)があり、バンが安心して住める環境ができているのである。とにかく警戒心が強く、人をなかなか寄せつけない。私も、バンの表情を撮りたくて隠れて近づく。バンも私に気づき、やり過ごそうとちょっとした間じっとしているが、私がその場を離れないと、隠れ家にいそいそと逃げ込むのだ。

4月6日 バンが私を挑発するように、ゆっくり逃げていくのである。次の日も、バンはウインクしながら、手招きしながら私を誘っている。私もつい誘惑されて、親バンの姿を写すのに夢中になった。ふと我に返って、川べりの草むらに目をやると、巣があり六個の卵が産まれていた。飛び上がるほどうれしかった。その日から、抱卵するバンの姿を、遠くから静かに見守った。

15日 いつものように巣を見に行くと、バンがそっと巣から逃げ出した。カメラで巣を覗くと雛がいる。親鳥が「ケッ」「ケッ」と警戒声を上げた。その声で、生まれてあまり日が経たない雛たちが、草むらの中に一斉に逃げ込んだ。次の日、親バンにチョコチョコついてまわる雛の姿を見かけることができた。真っ黒な、小っちゃな、可愛い雛たちである。



二日後 内田川に近づくと、近くの麦畑で、「ケッ」と警戒声が聞こえた。それ以来バン親子の姿を見ることはなかった。人やカラスなどの敵から守るため、雛を麦畑につれていったのだろう。子ども

もバンが親バンに見守られ、すくすく育つことを願っている。

[紹介者：白河部健さん]

天明まちづくりセンターでは、「ふるさとの鳥シリーズ」で紹介した野鳥の写真を月替わりで展示しています。ぜひご観覧ください。